

温泉分析書

(鉱泉分析試験による分析成績)

【源泉名】

大阪ベイタワー温泉

【温泉の泉質】

単純温泉(低張性・弱アルカリ性・高温泉)

旧泉質名:単純温泉

【温泉温度】

ア.源泉温度:45.1℃(調査時における気温31℃)

イ.入浴時温度:38℃~42℃

【温泉の成分(試験室における試験成績)】

ア.試験者:日本水処理工業株式会社

温泉成分分析機関 大阪府第5号

イ.分析年月日:令和元年8月23日

ウ.試料1kg中の成分

(イ).陽イオン

陽イオン成分	mg	mval	mval%
水素イオン (H^+)	0.1未満	—	—
リチウムイオン (Li^+)	0.1未満	—	—
ナトリウムイオン (Na^+)	89.5	3.89	96.45
カリウムイオン (K^+)	1.8	0.05	1.14
アンモニウムイオン (NH_4^+)	0.5	0.03	0.69
マグネシウムイオン (Mg^{2+})	0.6	0.05	1.22
カルシウムイオン (Ca^{2+})	0.4	0.02	0.49
ストロンチウムイオン (Sr^{2+})	0.1未満	—	—
バリウムイオン (Ba^{2+})	0.1未満	—	—
アルミニウムイオン (Al^{3+})	0.1未満	—	—
マンガンイオン (Mn^{2+})	0.1未満	—	—
鉄(II)イオン (Fe^{2+})	0.1未満	—	—
鉄(III)イオン (Fe^{3+})	0.1未満	—	—
陽イオン 計	92.8	4.04	100

(ハ).遊離成分

非解離成分	mg	mmol
メタケイ酸 (H_2SiO_3)	70.8	0.91
メタホウ酸 (HBO_2)	0.9	0.02
メタ亜ヒ酸 ($HAsO_2$)	0.1未満	—
非解離成分 計	71.7	0.93

溶存物質計(ガス性のものを除く) 0.421 g/kg

(二) その他の微量成分(mg)

総ヒ素 (As)	0.008
銅イオン (Cu)	0.01 未満
鉛イオン (Pb)	0.01 未満
総水銀 (Hg)	0.00005 未満
亜鉛イオン (Zn)	0.01 未満
カドミウム (Cd)	0.01 未満
総クロム (Cr)	0.01 未満

陰イオン成分	mg	mval	mval%
フッ素イオン (F)	0.1	0.01	0.12
塩素イオン (Cl)	15.7	0.44	10.01
臭素イオン (Br)	0.2	0.00	0.06
ヨウ素イオン (I)	0.1未満	—	—
硫化水素イオン (HS)	0.8	0.02	0.55
硫酸イオン (SO_4^{2-})	1.7	0.04	0.80
チオ硫酸イオン ($S_2O_3^{2-}$)	0.1未満	—	—
亜硝酸イオン (NO_2^-)	0.1未満	—	—
硝酸イオン (NO_3^-)	0.1未満	—	—
リン酸水素イオン (HPO_4^{2-})	1.9	0.04	0.90
炭酸水素イオン (HCO_3^-)	236.3	3.87	87.57
炭酸イオン (CO_3^{2-})	0.1未満	—	—
陰イオン 計	256.7	4.42	100

溶存ガス成分	mg	mmol
遊離二酸化炭素 (CO_2)	7.0	0.16
遊離硫化水素 (H_2S)	0.1未満	—
溶存ガス成分 計	7.0	0.16

成分総計 0.428 g/kg

【禁忌症、適応症】

源泉での分析結果による療養泉分類に基づく禁忌症、適応症等は環境省自然環境局長通知(平成26年7月1日)

環自施第227号及び環自総発第1407012号によれば次のとおりである。

浴用の禁忌症

一般的禁忌症 病気の活動期(特に熱のあるとき)、活動性の結核、進行した悪性腫瘍又は高度の貧血など身体衰弱の著しい場合、少し動くと息苦しくなるような重い心臓病又は肺の病気、むくみのあるような重い腎臓の病気、消化管出血、目に見える出血があるとき、慢性の病気の急性増悪期

泉質別禁忌症

該当項目なし

浴用の適応症

一般的適応症 筋肉若しくは関節の慢性的な痛み又はこわばり(関節リウマチ、変形性関節症、腰痛症、神経痛、五十肩、打撲、捻挫などの慢性期)、運動麻痺における筋肉のこわばり、冷え性、末梢循環障害、胃腸機能の低下(胃がもたれる、腸にガスがたまるなど)、軽症高血圧、耐糖能異常(糖尿病)、軽い高コレステロール血症、軽い喘息又は肺気腫、痔の痛み、ストレスによる諸症状、病後回復期、疲労回復、健康増進

泉質別適応症

自律神経不安定症、不眠症、うつ状態

【浴用の一般的注意事項】

温泉の浴用は、以下の事項を守って行う必要がある。

ア.入浴前の注意

(ア) 食事の直前、直後及び飲酒後の入浴は避けること。酩酊状態での入浴は特に避けること。

(イ) 過度の疲労時には身体を休めること。

(ウ) 運動後30分程度の間は身体を休めること。

(エ) 高齢者、子供及び身体の不自由な人は、1人での入浴は避けることが望ましいこと。

(オ) 浴槽に入る前に、手足から掛け湯をして温度に慣らすとともに、身体を洗い流すこと。

(カ) 入浴時、特に起床直後の入浴時などは脱水症状等にならないよう、あらかじめコップ一杯程度の水分を補給しておくこと。

イ.入浴方法

(ア) 入浴温度:高齢者、高血圧症若しくは心臓病の人又は脳卒中を経験した人は、42℃以上の高温浴は避けること。

(イ) 入浴形態:心肺機能の低下している人は、全身浴よりも半身浴又は部分浴が望ましいこと。

(ウ) 入浴回数:入浴開始後数日間は、1日当たり1~2回とし、慣れてきたら2~3回まで増やしてもよいこと。

(エ) 入浴時間:入浴温度により異なるが、1回当たり、初めは3~10分程度とし、慣れてきたら15~20分程度まで延長してもよいこと。

ウ.入浴中の注意

(ア) 運動浴を除き、一般に手足を軽く動かす程度にして静かに入浴すること。

(イ) 浴槽から出る時は、立ちくらみを起こさないようにゆっくり出ること。

(ウ) めまいが生じ、又は気分が不良となった時は、近くの人に助けを求めるつづ、浴槽から頭を低い位置に保ってゆっくり出て、横になって回復を待つこと。

エ.入浴後の注意

(ア) 身体に付着した温泉成分を温水で洗い流さず、タオルで水分を拭き取り、着衣の上、保温及び30分程度の安静を心がけること(ただし、肌の弱い人は、刺激の強い泉質(例えは酸性泉や硫黄泉等)や必要に応じて塩素消毒等が行われている場合には、温泉成分等を温水で洗い流した方がよいこと)。

(イ) 脱水症状等を避けるため、コップ一杯程度の水分を補給すること。

オ.湯あたり

温泉療養開始後おおむね3日~1週間前後に、気分不快、不眠若しくは消化器症状等の湯あたり症状又は皮膚炎などが現れることがある。

このような状態が現れている間は、入浴を中止するか、又は回数を減らし、このような状態からの回復を待つこと。

カ.その他

浴槽水の清潔を保つため、浴槽にタオルは入れないこと。

【加湿、濾過、入浴剤の利用の有無】

温泉利用浴槽(浴槽名:源泉風呂、露天風呂、庭見風呂、個室温泉)加温有り 理由:入浴に適切な温度に保つ為、加温しております。

源泉かけ流し(浴槽名:源泉風呂)

源泉かけ流し(利用者毎の入替え)(浴槽名:個室温泉)

濾過循環式(浴槽名:露天風呂、庭見風呂)理由:衛生管理の為、循環濾過装置を通年使用しております。

入浴剤:使用なし

消毒方法:衛生管理の為、塩素系薬剤を通年使用しております。

飲用:不適。浴槽湯口のお湯は飲用できません。